

付章 1 北河内における弥生から古墳へ

～墓制を中心として～

前言

中野遺跡の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓を構成する可能性がある溝を検出した。これに関連し、本章では平成25年11月16日に大阪府立弥生文化博物館スポット展示（イオンモール四條畷建設地の調査成果展示）に伴い行なわれた講演会『最新報告 讃良郡条里遺跡の弥生時代』において行なった、北河内の弥生時代から古墳時代にかけての墓制についての講演記録を掲載する。

1. はじめに

北河内地域は、大阪府の北東部に位置していて、枚方市・交野市・寝屋川市・四條畷市・大東市・門真市・守口市から成っています。北西は北摂地域に接していて、その境目を淀川が西流しています。北東は京都府と接し、石清水八幡宮が山のすぐ向こう側にあります。東は生駒山系を境に奈良県と接しています。西は大阪市と、南は中河内地域と接しています。

讃良郡条里遺跡は、四條畷市と寝屋川市にまたがる遺跡です。その調査成果と弥生時代の周辺遺跡については、ここまでの講演で詳しく話がなされました。讃良郡条里遺跡の今回の調査では、弥生時代から古墳時代へと、途切れなく遺跡が利用されていたことが分かりました。ここでは北河内地域における弥生時代から古墳時代へのうつりかわりについて、お墓という視点から考えていき、讃良郡条里遺跡の今回の調査成果を位置づけてみたいと思います。

2. 弥生時代の墓制

弥生時代のお墓として、門真市の古川遺跡では、弥生時代前期末から中期初頭（約2200年前）の時期の方形周溝墓（周りに四角い形に溝を掘って中央に掘った土を積み、その部分に墓穴を掘るお墓）が10基以上みついています。この方形周溝墓は一辺が約8mありました。土を盛り上げて作るお墓としては北河内で最も古いものです。

四條畷市の雁屋遺跡や鎌田遺跡では、弥生時代中期（約2100年前）の同じような方形周溝墓がみついています。このうち雁屋遺跡のものは一辺が13m程のものが複数みついています。そのうち2基からは合計20基の埋葬施設がみつかっていて、非常に木棺の残りが良く、埋葬されていた人骨も出土しています。木棺にはコウヤマキが使われていて年輪を使った年代測定が行われており、紀元前134年頃の伐採の可能性が高いとされています。この方形周溝墓の周溝から出土した土器には、水銀朱が塗られているものがありました。また、木製の蓋付四脚容器もみつかっていて、その蓋にも水銀朱が塗られていました。

別の調査地では同じような方形周溝墓のまわりの溝から木製のタンカと鳥形木製品がみついています。いずれも葬儀（葬送儀礼）の際に使用したものとみられます。当時は鳥が魂を天に運ぶ存在とされていたようで、このような鳥の木製品が用いられたとみられます。

鎌田遺跡でも一辺10m程のものが5基みつかっていて、そのうちの1基からは木棺がみつかりました。

こういった方形周溝墓はほかに枚方市の楠葉野田西遺跡、交北城ノ山遺跡、招提中町遺跡、星丘西遺跡、アゼクラ遺跡や寝屋川市大尾遺跡などで弥生時代中期のものが、枚方市の茄子作遺跡などで弥生時代後期のものがみついています。このような方形周溝墓は、特に雁屋遺跡などでは特徴的でしたが、特定の人物のためにつくられたお墓ではなく、家族などが葬られる集団墓という意味合いの強いものでした。

3. 古墳時代への胎動

このように、弥生時代には方形周溝墓という家族等が集団で葬られるお墓が造られました。そうした中で、少しずつ、個人のためにつくられるお墓というのが現れてきます。弥生時代中期の寝屋川市

大尾遺跡では、方形周溝墓に葬られた人の中で棺の中に水銀朱がまかれたものがみつかっています。他の棺ではこのような跡はみつからないので、この人物は何らかの特別扱いをされ、朱がまかれた可能性があります。

枚方市の鷹塚山遺跡や星丘西遺跡、中宮ドンバ遺跡では、弥生時代後期から終末期ごろにかけての時期のもので、方形や円形の墳丘を持っていたり、大きな棺を用いて、鉄製の武器などの副葬品を持っているような墓がみつかっています。これらの遺跡では、葬られた被葬者は明らかに特別扱いされていて、その地域で権力をもった有力者の墓の可能性があります。

寝屋川市の小路遺跡では、一辺数mから10m前後の方形周溝墓群がみつかりましたが、その中に1基、方形の墓にさらに突出部がついた前方後方形の墓がありました。この墓は上の部分が削られていて人が葬られていた部分はみつかりませんでした。全長が22.7mあります。このような墳丘の形をしたお墓は、弥生時代から古墳時代へと移り変わる時期に生み出されたものです。この遺跡は古墳時代前期初頭（約1750年前）の時期にあたっており、北河内地域における弥生時代から古墳時代への転換を示す遺跡の一つです。

4. 古墳時代前期の北河内

このようにして突出した権力をもつ特定の人物のために大きな墳丘を持つお墓が造られるようになり、古墳時代を迎えます。その過程では、奈良県にあったであろう王権の中核とのかかわりで様々な動きがあったことでしょう。

讃良郡条里遺跡の今回の調査では、古墳時代前期（約1750～1600年前）にも集落が営まれていたことが分かっています。古墳時代前期の集落は、東西にのびる土地の高まり（微高地）上に営まれており、建物跡や土坑、井戸などがみつかりました。みつかった集落は遺構が密集しており、何度か建物が立て替えられた可能性があります。

北河内で、現時点で最も古い古墳と言えるのが、交野市にある森古墳群の鍋塚古墳です。この古墳は全長67mあって、前方後方墳という形のお墓です。この次に続くのが雷塚古墳で、これは全長が106mあります。これらの古墳を含め、森古墳群にはわかっているだけでも6基の古墳があり、継続してこの地域に有力者がいたことが想定されます。また、この古墳群では北河内の他の地域とは異なりそのほとんどが前方後方墳である可能性が指摘されていて、大和（奈良県）の王権中核との関係が注目されます。

枚方市域には三つの特筆すべき前期古墳があります。禁野車塚古墳は、全長約120mの前方後円墳です。これまでに墳丘の形が詳細に測量された結果、奈良県の箸墓古墳と同じ形をしていることが指摘されています。墳丘の長さではわかっている中で北河内最大の大きさを誇る古墳です。

万年寺山古墳は、墳丘の形はわかりませんが、現在の意賀美神社境内で明治37年に工事中に発見され、三角縁神獣鏡7面を含む9面の鏡などがみつかりました。銅鏡の出土面数が突出していて、その内容は北河内でわかっている中では随一のものです。

牧野車塚古墳は、全長107.5mある前方後円墳です。以前はもっと新しい古墳時代中期のものとされることが多かったのですが、近年の発掘調査で古墳時代前期の古墳であることがわかってきました。その規模は禁野車塚古墳に次ぐ大きさです。

今回の讃良郡条里遺跡の調査地から最も近い位置にあるのが四條畷市にある忍岡古墳です。調査地から東に1kmの位置にあります。古墳は全長87mの前方後円墳です。主体部の竪穴式石室（竪穴式石槨）は盗掘されていましたが、昭和10年の京都大学による調査で鍬形石や紡錘車などの石製品や、鉄剣、鉄鎌、小札片などが出土しました。墳丘の規模や残されていた副葬品の内容から、この地域を治めていた有力者の墓であると考えられます。これまで、忍岡古墳の被葬者を支える基盤となった集落はみつかっていませんでした。今回みつかった集落は古墳から約1kmと近い距離にあり、この集落が忍岡古墳の被葬者を経済的にも築造の面でも支えた集落であったと考えられます。

忍岡古墳の周辺に位置する古墳時代前期集落としては、今回みつかった讃良郡条里遺跡の集落の他に、讃良郡条里遺跡のうち寝屋川市域でみつかった集落などがあり、これらの集落が忍岡古墳の被葬者を支えた集落であったとみることが出来るでしょう。

5. おわりに―北河内における弥生から古墳へ―

このように、北河内地域での弥生時代から古墳時代への流れについて、お墓という視点から概観してきました。弥生時代の前期末以来、北河内地域では方形周溝墓という型式のお墓がつくられてきました。それが、弥生時代でも後半期になるとだんだんと有力者のための墓がみられるようになり、古墳時代前期になって全長100mを超すような大きな墓が造られました。それらはその地域を治めたであろう有力者の墓と考えられ、枚方市域、交野市域、四條畷市域にはかなりの大きさをもった古墳が造られたことをみてきました。北河内という大阪のほんの一地域に過ぎない範囲のなかでも、弥生時代から古墳時代への時代の流れについてかなり詳しく追うことができることを、みていただけたかと思います。

(實盛)

主用参考文献

宇治原靖泰ほか編1999『古川遺跡』門真市教育委員会。
梅原末治1937「河内四條畷村忍岡古墳」『日本古文化研究所報告』第4、日本古文化研究所。
大竹弘之・田中秀和1989「中宮ドンバ遺跡」『枚方市文化財年報』IX、財団法人枚方市文化財研究調査会。
香芝市教育委員会・香芝市二上山博物館編2008『邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和』。
木下保明編2004『小路遺跡（その3）』（財）大阪府文化財センター。
財団法人大阪府文化財センター編2005『北河内発掘！緑立つ道に歴史わきたつ』。
財団法人交野市文化財事業団編2009『北河内の古墳』。
四條畷市教育委員会編2002『みどりの風と古墳』第17回特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
四條畷市教育委員会編2006『こども歴史 わたしたちの四條畷』四條畷市教育委員会。
四條畷市教育委員会編2011『魂はどこへ』第26回特別展、四條畷市立歴史民俗資料館。
下村節子ほか2009『図録 考古資料でみる枚方の歴史2009』財団法人枚方市文化財研究調査会。
下村節子・野島稔編1996『図説・北河内の歴史』郷土出版社。
西田敏秀・荒木幸治2000「淀川左岸地域における弥生集落の動態」『みずほ』第32号、大和弥生文化の会。
寝屋川市教育委員会編2004『邪馬台国と北河内』歴史シンポジウム資料。
寝屋川市教育委員会編2009『古墳出現前夜の北河内』歴史シンポジウム資料。
寝屋川市教育委員会編2010『緑立つ道の遺跡たち』歴史シンポジウム資料。
枚方市教育委員会・（財）枚方市文化財研究調査会編2009『交野ヶ原の前期古墳』歴史シンポジウム資料。
真鍋成史編2007『交野市の埴輪』交野市教育委員会。
六辻彩香編2006『小路遺跡』Ⅲ、（財）大阪府文化財センター。